

目標達成計画

事業所名: グループホームえべつ

作成日: 平成 30年 4月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	IV	一つ一つの支援の意味合いを理解せず、職員優先の流れ作業になりがちのため、観察が不足し、情報の共有・チームとしての継続性のあるケアが実施できていない。	継続性のある支援で安心安全な生活の提供をする。	申し送り・カンファレンス、日常的に継続支援の意味合い、大切さを話し、入居者様各々の生活は、点ではないことを、職員自身の生活に置き換え理解する。 一つ一つの支援の意味合いを理解し、職員間の連携・情報共有を密にする為に	1年
2	38	入居者様の自由な行動の中で職員が困ること業務上不都合な事を入居者様の問題点と捉え、日々の業務を優先し職員の都合に入居者様を合わせ、入居者様との関わりが足りなくなりがち。入居者様の思いや生活の意向を優先し心身の状態に合わせた支援がなされているか？	現状に問題意識を持ち、職員各々の言動を省みる。 入居者様優先とはどうゆう事かを理解し個別性を考慮した支援を実施。	普段の申し送りや、カンファレンスにおいて、何が、誰にとっての問題点かを話し合い整理する。 職員間で支援する側、される側の身になり疑似体験することで適切か確認し合う。 入居者様を変えるのではなく、職員側の意識、姿勢、業務を変え、入居者様優先に考える。	1年
3	36	入居者様に対し砕けた言葉態度で、親密さと無礼さを混同してしまっている。	『親しき中にも礼儀あり』 自分の感覚を押しつけることなく、相手の感覚を重視し、相手にとって心地よい言動を常に意識する。	入居者様の気持ちや言動の背景を推し量り、意見交換することで、ひとつの事象にも受け取り方は様々であることを理解する。	1年
4	6	入居者様へ行動に対し制止言葉がとっさに出てしまう。	適切な言葉がつかえるようになる。	職員相互にチェックし合い、なぜその様な言葉を使ってしまうか原因を探りアドバイスし合い、適切な言葉がつかえるようになる。	1年
5	26 27	入居者様担当職員と計画作成担当者を中心としケアプラン作成するも、ケアプランに沿った支援・記録が適切に実施できていない。 形式的なものにならないように注意が必要。	ケアプランに沿った支援ケアプランを理解し、記録の充実を図り、サービス提供に反映させる	普段の申し送りや、カンファレンスにおいて、ケアプランとの整合性を確認し、細かなモニタリングと記録の充実を図っていく。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。